県立広島病院広報誌
もみじ
第64号
2014.6.1
発行
県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 （URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

連携医院のご紹介

今回は『医者あらため、癒し屋』であることを大切にしておられます、江島医院 山木戸先生です。

山木戸院長とスタッフ

医療法人社団
江島医院
〒734-0015
広島市南区宇品御幸2-5-7
電　話／082-251-2525
院　長／山木戸　英人
診療科目／内科・小児科・呼吸器科・消化器科
皮膚科（※水曜日午前中）

○開業前から今までのことについて教えてください。

勤務医時代は広島市立舟入病院の呼吸器科で診療していました。患者さんの中には救急医療だけでなく生活全体のサポートを必要とする方も多くおられました。開業医になってからもここが悪いという病気のことだけでなく、患者さんの全体を見る「総合医」としての姿勢を変えず、日々診療にあたっています。

○診療で大切にしていることは何ですか。

力を入れていることは、患者さんの為になるように病気だけではなく、人を診ることを大切にしています。例えばお腹が痛いと言われても、腰が痛いのか、表情はどうなのかなど、患者さんが診察室に入られた時から目を向けて、そこから診ています。その原点は、広島大学時代の最後の授業で「医者ではなく、癒し屋になるように」と講義を受けたことです。以来「医者（いしゃ）」ではなく「癒し屋（いやしや）」になるように心がけています。

○県病院に一言お願いします。

おかしいと思ったら、すぐに県病院へ紹介しているので、頼りにしています。紹介のお返事もきちんと頂いております。

○地域医療連携システム（KBネット）について。

県病院へ紹介した患者さんの経過や、担当医の考えていることがKBネットを通じて知ることができます。そのため、当院に患者さんが帰ってこられた際には、説明がしやすいです。

江島医院外観

【取材後記】
山木戸院長のやさしい笑顔と、スタッフのわきあいあいとされている雰囲気に癒しを感じることができました。

インフォメーション

がん相談支援センターとは

全国のがん診療連携拠点病院に設置されている『がんの相談窓口』のことをいいます。患者さんやご家族の方はもちろん、地域の方々のがんに関する相談にもお応えしています。当院を受診されていない方もご利用いただけます。がんに関する研修を受けた専門の相談員が、がんの治療や療養生活についてのご質問・ご相談をお受けしています。

緩和ケア介護支援専門員・地域連携職種研修 平成26年度基礎コース

開催日　平成26年7月9日(水)・15日(火)の2日間
時　間　9:00～16:30
場　所　新東棟2階 総合研修室
申込期間　平成26年6月4日(水)~6月18日(水)必着
参加費　5,000円（資料代）
対　象　次の①、②のいずれかと③の用件を満たす者
①居宅介護支援事業所・介護保険施設等に勤務する介護支援専門員
②医療・福祉機関・介護保険施設等で地域連携・相談業務を行っている者
③全課程（2日間）を全て出席できる者
問合せ先　広島県緩和ケア支援センター　緩和ケア支援室
（緩和ケア介護支援専門員・地域連携職種研修 基礎コース 担当）
※詳細はホームページでご確認下さい。
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/muki-shien03-cordinator.html

7月7日(月) 七夕コンサート
15:00～　中央棟1階中央ホール

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,690円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなることがありますので、ご了承下さい。

KBネット

現在の参加医療機関は **168** 機関です。（5月19日現在）
問合せ先　地域連携センター
電話(082)252-6228(直通)

がん専門医よろず相談所

7月からの院内に、がんの専門医が対応する相談窓口『がん専門医よろず相談所』を開設します。毎週火曜日（13時～16時）の予約制です。今まで気になっていたけど聞けなかったことにお答えしたり、医師の立場から情報提供などを行いますので、是非ご利用下さい。相談は無料です。『がん相談窓口』においても看護師による相談をお受けしております。

ご利用案内

	よろず相談所	がん相談
日時	毎週火曜日 13:00～16:00	平　日 9:00～16:00
場所	がん専門医よろず相談所	がん相談窓口
	中央棟1階 がん相談支援センター	
電話	082-256-3561 ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00（あらかじめお電話でお申し込み下さい）	

皆様のお越しをお待ちしております！

開設記念講演会 無料
『がん相談を活用しよう！』

日時　平成26年7月5日(土) 13:00～15:00
場所　中央棟２階 講堂
講師　がん専門医よろず相談所相談医（栃木県立がんセンター名誉所長）
児玉 哲郎 先生

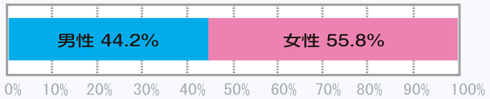
患者さん満足度☺ アンケート調査の報告

当院では毎年1回、入院及び外来患者さんに満足度調査を実施しています。多数の患者さんに御協力を頂き、誠にありがとうございました。その結果を報告いたします。尚、今後ともお気づきの点がございましたら、院内のご意見箱へお寄せ下さい。

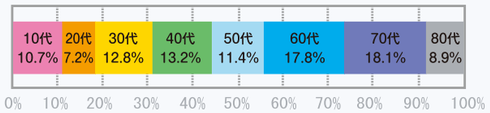
外来

- 調査期間：平成26年2月
- 調査母数：600人

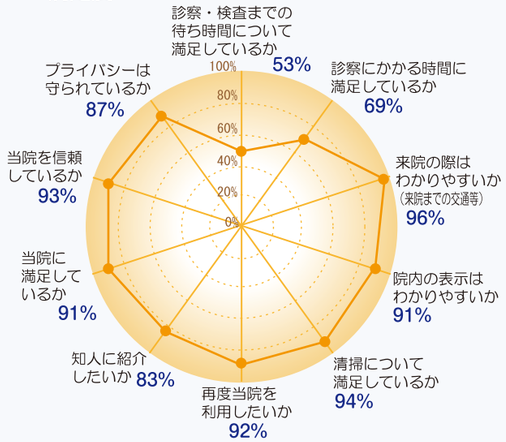
性別



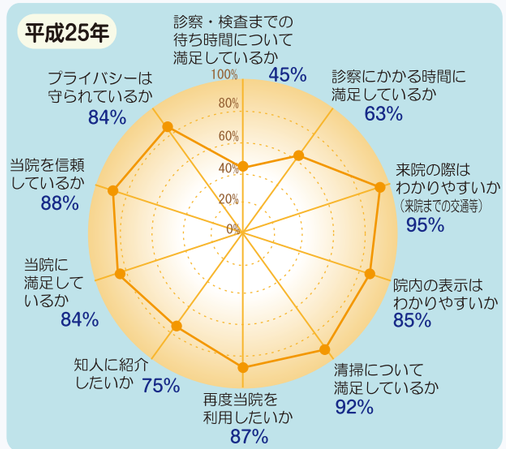
年代別



満足度



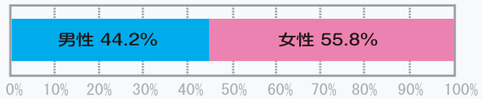
平成25年



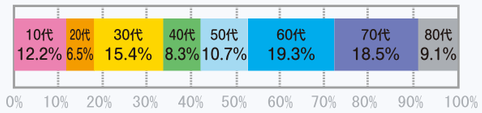
入院

- 調査期間：平成26年2月
- 調査母数：389人

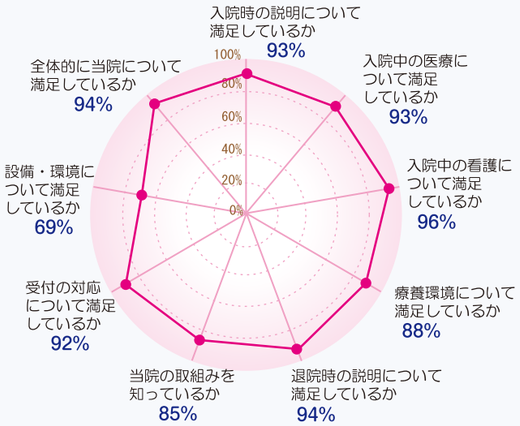
性別



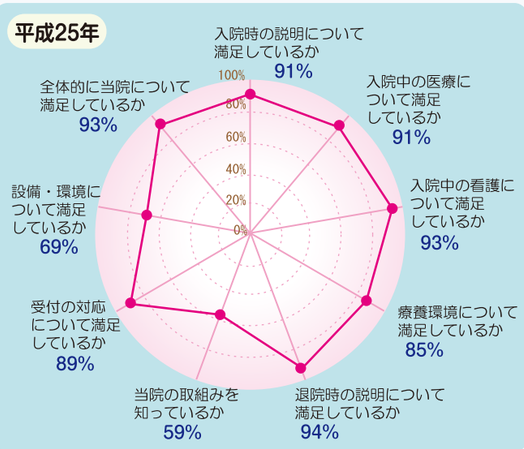
年代別



満足度



平成25年



外科医の独り言 no.33

ー 笑顔を忘れた外科医 ー

皆さんが初めて病院を訪れて、診察室に入った時を思い浮かべてください。その時先生が不機嫌な顔をしていたらどうでしょう?やはり嫌ですよね。もし医療をサービス業と考えればデパートと同じようにお客さん（患者さん）に不快な思いをさせないために笑顔で接する必要があります。県病院でも接遇マナーの専門家を招いて接遇の講習会がよく行われています。観光立国のタイは“微笑みの国”と言われるだけあって学校で笑顔の授業があるそうです。もちろん医療は笑ってさえいれば良いというわけではなく、正しく診断して病気を治すことが第一です。そこに笑顔があれば最高の医療かもしれません。自然と出る笑顔あるいは心底楽しい時の笑顔はいい笑顔なのかもしれませんが、私自身ルックスに自信がある訳でなく、ましてや作り笑いは引きつり、かえって不快感を与えるのではないかと危惧しています。

医師になって5年目、大学病院に勤務していた時のことです。担当していたがんの患者さんが夜中に亡くなられ、付き添っておられた家族に臨終を告げ病室を後にして詰所に帰ってきました。詰所の中で夜勤の看護婦さんと会話をしていてニコッと笑ったようです。声を出して大笑いをしたわけではありません。何の話をしていたのか覚えていませんが、少なくとも作り笑いではなく会話の中で自然と出た笑顔だったと思います。先ほど臨終を告げたばかりの患者さんの家族が詰所の前を通りがかってその光景を目撃されたのです。先程まで神妙な顔をして臨終を告げたばかりの私が笑っている?何がそんなにおかしいのですか?というような意味合いのことを言われました。確かに不謹慎です。このことを契機に私は誓いました。病院の中には病気の人とその家族が病気と闘っているのだから楽しいわけはない、またいつどこで見られているかもわからないので、もう何があっても二度と病院内では笑わないと。そして不必要な会話はしないと。その当然の結果として、無愛想な外科医、いつもブスッとしているという印象を患者さんや家族だけでなく医療スタッフにも与えていたようです。

そのような姿勢を2、3年は貫いたと思いますが、聖人君子ではないので長続きはしませんでした。その後はブスッと時には笑顔で患者さんに接してきました。作り笑いは患者さんに不快感を与えかねないので止めました。鏡の前で笑ってみてこれはやめた方がいいと自分ですぐに悟ったので病院の接遇研修にも出席していません。また、自分が知らないだけで、自然にでる笑顔も状況によっては不快感を与えることとなり、あとで反省したこともありました。一方で、無愛想な医者と言われてはうれしくありません。さらに無愛想な顔はもっと不快感を与えてきたようです。

さて、私はどうしたらよいのでしょうか?いろいろ考えた末これからは無理に表情を作らない、自然にまかせるという結論に達しました。ただ自然に任せると、私も歳をとってきて顔の筋肉は緩んでいるので、にやけた外科医か無表情の外科医になるかもしれません。ご了承ください。

院長補佐（消化器･乳腺･移植外科主任部長）
板本敏行（いたもと としゆき）

県病の星 緩和ケア認定看護師

私たちにご相談下さい！

緩和ケア認定看護師スタッフです

「緩和ケア」という言葉を聞くと“がんが進行した際に受ける医療”というマイナスのイメージを持たれる方が多いのではないでしょうか。「緩和ケア」とはがんと診断されたときから始まる、病気や治療に伴う身体や気持ちの辛さを和らげるためのケアのことをいいます。辛いと感じておられる症状を和らげ、生活する中で困っていることを解決することで、治療を受けながら前向きに生活できるための方法を一緒に考え、お手伝いをしています。がんの治療を選択する時、治療を継続している時期、療養場所を考えるときなど、様々なことに悩まれると思います。同時に、誰かの意見を聞いてみたい、あるいは、話を聞いてほしい、ということもあると思います。そんなとき、些細なことでも構いません。ご本人はもちろん、ご家族からでも、お気軽に声をおかけください。